



2026年(令和8年)カレンダー
国文学研究資料館

2026年(令和8年)カレンダー
国文学研究資料館



1

むつき
睦月

2026
令和8年

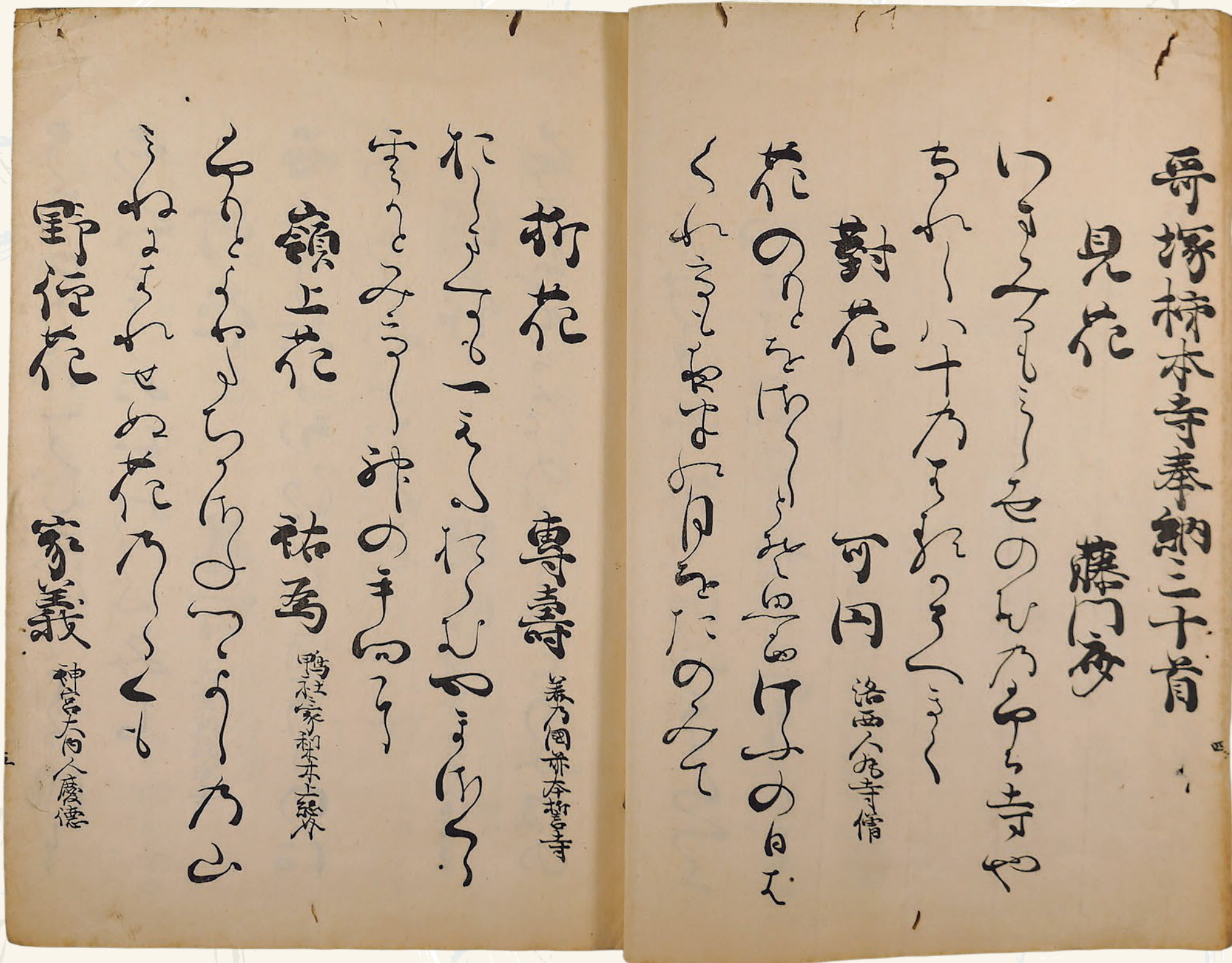
2

きさらぎ
如月

日	月	火	水	木	金	土
				1 <small>元日</small>	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12 <small>成人の日</small>	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11 <small>建国記念の日</small>	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23 <small>天皇誕生日</small>	24	25	26	27	28





3

やよい
弥生

2026
令和8年

4

うづき
卯月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20 <small>春分の日</small>	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29 <small>昭和の日</small>	30		



大学共同利用機関法人 人間文化研究機構

国文学研究資料館

TEL : 050-5533-2900 <https://www.nijl.ac.jp/>

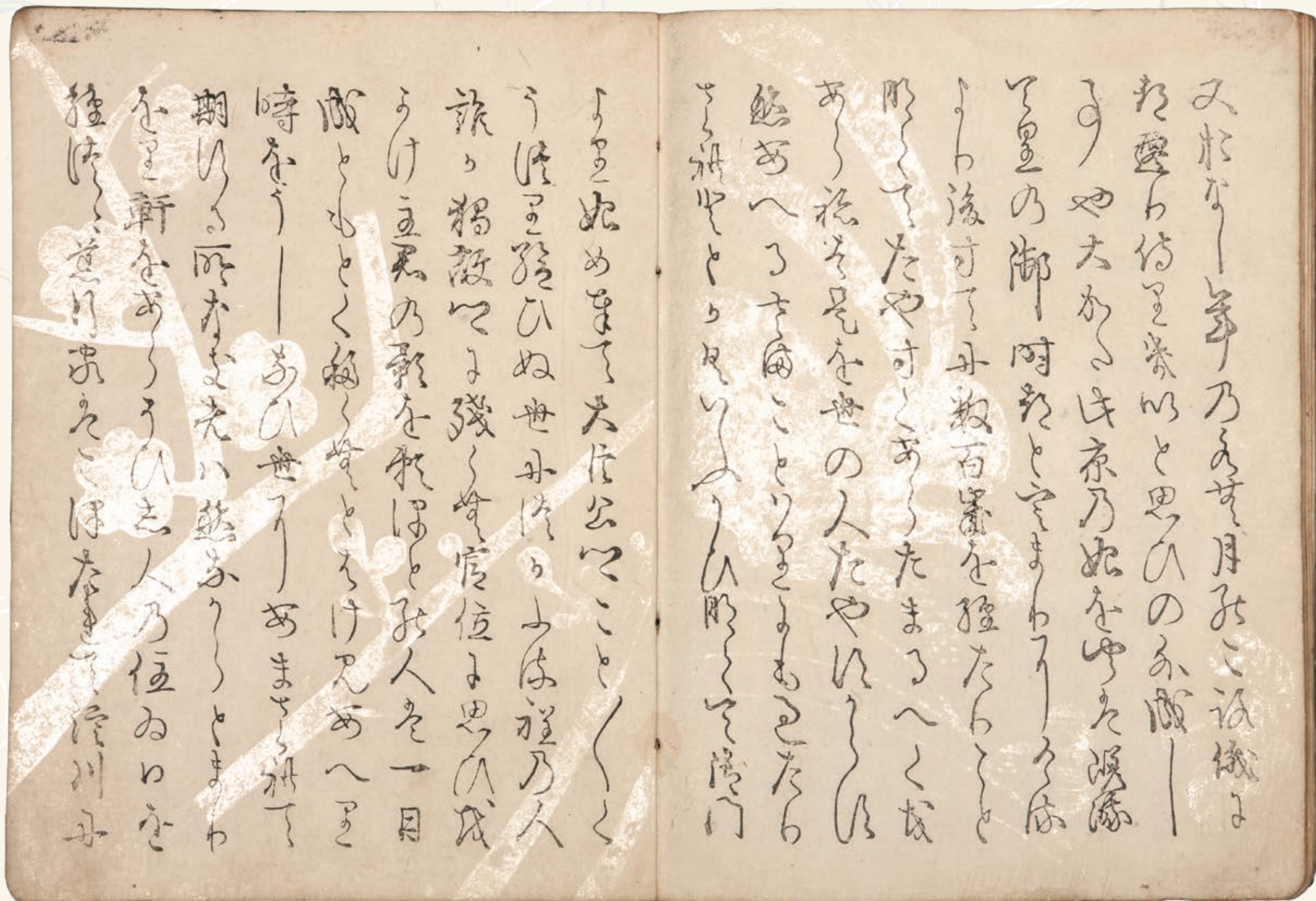
『柿下寺奉納和歌集(かきのもとでらほうのうわかしゅう)』

【当館蔵 請求記号:52-163 石野家本】

(安永2年(1773)以降刊 包背装袋綴(結綴) 31.8×22.5センチ)

江戸時代中期の堂上歌壇を代表する公卿冷泉為村(1712-1774)が、大和国の柿本寺に奉納した和歌三種と寺の僧に贈った和歌を収める。そのうち、「哥塚柿本寺奉納三十首」は安永2年(1773)の柿本人麻呂千五十回忌に為村が勧進した奉納和歌。題は人麻呂の忌日とされていた3月18日に因んで桜花にまつわる結題であるが、本書に拠れば、先の千回忌に森本宗範(歌塚を建立した人物)が催した当座歌会の歌題であると言う。為村の定家様の書を再現したこの板本は、古筆の精妙な模刻で知られる板木師、井上清風の刻。小津桂窓旧蔵。





5

さつき
皐月

2026

令和8年

6

みなづき
水無月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3 憲法記念日	4 みどりの日	5 こどもの日	6 振替休日	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				

『方丈記(ほうじょうき)』

【当館蔵 請求記号:99-168】

(慶長15年(1610)年以前刊 綴葉装 25.4×18.6センチ)

又おなじ年の水無月のころ、俄に都遷り侍りき——と語り出されるのは、京の都にうち続いた、いわゆる五大災厄(大火・辻風・都遷り・大地震・飢饉)の第三、都遷りである。平清盛が幼い安徳天皇を伴って福原に遷都したのは、治承4年(1180)、鴨長明26歳の年の6月のことであった。本書は連綿体の木活字を用いた嵯峨本で、料紙に雲母刷文様を施した綴葉装仕立ての特性本(第一種本)。都遷りに困惑する人々と、荒廃してゆく平安京の様子を描く内容とは裏腹に、梅の下絵が美しい。西荘文庫(小津桂窓)の印がある。



大学共同利用機関法人 人間文化研究機構

国文学研究資料館

TEL : 050-5533-2900 <https://www.nijl.ac.jp/>





7
ふみづき
文 月

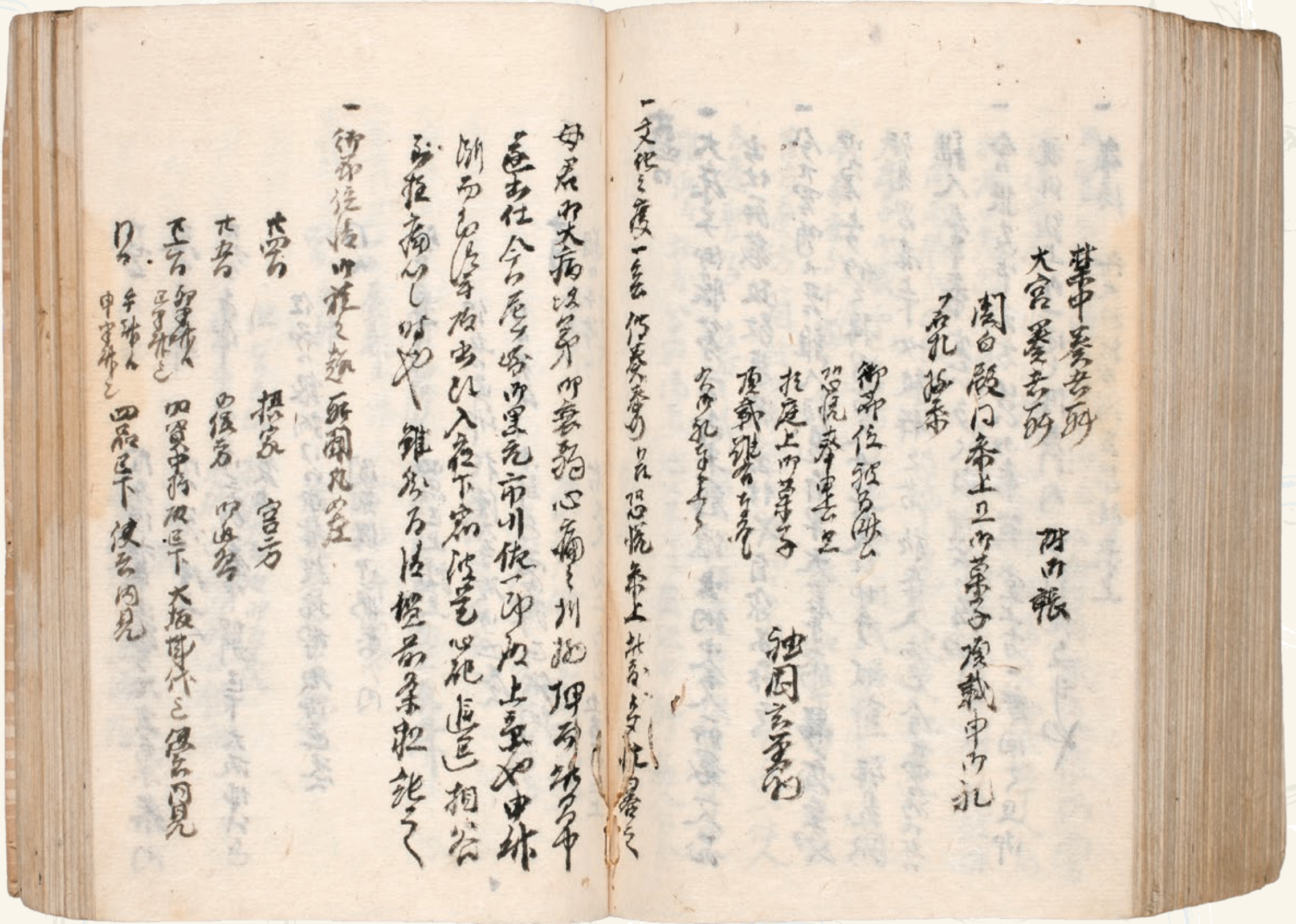
2026
令和8年

8
はづき
葉 月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20 海の日	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11 山の日	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					





9

ながつき
長月

2026
令和8年

10

かんなづき
神無月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30			

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31



大学共同利用機関法人 人間文化研究機構

国文学研究資料館

TEL : 050-5533-2900 <https://www.nijl.ac.jp/>

『山城国京都袖岡玄蕃助家記』

【請求番号:26Y/00005】

(袖岡文景 弘化4年(1847)成立 1冊 23.7×16.5センチ)

袖岡玄蕃助文景は堂上公家の勧修寺家雑掌であり、近世中期以降、藏人所衆・上南座という朝廷の地下官人を務めた。『山城国京都袖岡玄蕃助家記』は6冊遺されている。掲出部分は弘化4年(1847)9月24日条で、前日に行われた天皇統仁(孝明天皇)即位礼に際して、御所や関白鷹司政通に御祝いを述べに伺った時に、関白邸で菓子をもらい、その御礼を伝えている記事である。





11

しもつき
霜 月

2026
令和8年

12

しわす
師 走

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3 文化の日	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23 勤労感謝の日	24	25	26	27	28
29	30					

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		



大学共同利用機関法人 人間文化研究機構

国文学研究資料館

TEL : 050-5533-2900 <https://www.nijl.ac.jp/>

『武蔵国絵図』

【請求番号:27M-2】

(近世前期成立 1鋪 484センチ×400センチ)

武蔵国(現在の東京都・埼玉県及び神奈川県の一部)を描いた絵図。道や川を描き、山並みは緑色に着色され、楕円形の黒丸に村名などが記されている。正保年間(1645~1648)に江戸幕府が全国に作成を命じた「正保国絵図」の下絵と考えられているが詳細は不明。なお、当館が立地する立川付近は当時開拓が進んでいないため、青梅街道が一本描かれているのみである。掲出部分は青梅宿付近である。





外観



閲覧室



展示室



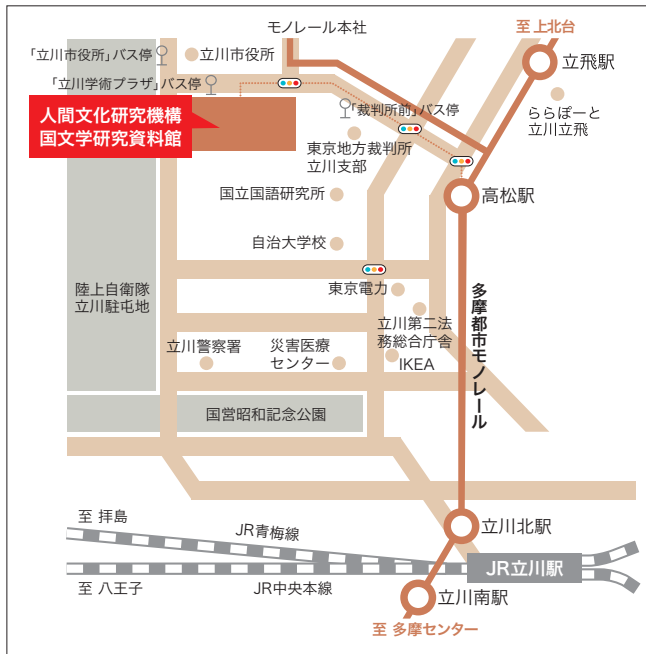
大学共同利用機関法人 人間文化研究機構

国文学研究資料館

<https://www.nijl.ac.jp/>



国文学研究資料館は、国内各地の日本文学とその関連資料を大規模に集積し、日本文学をはじめとするさまざまな分野の研究者の利用に供するとともに、それらに基づく先進的な共同研究を推進する日本文学の基盤的な総合研究機関です。創設以来 50 年以上にわたって培ってきた日本の古典籍に関する資料研究の蓄積を活かし、国内外の研究機関・研究者と連携し、日本の古典籍を豊かな知的資源として活用する、分野を横断した研究の創出に取り組みます。



〒190-0014

東京都立川市緑町 10-3

交通のご案内

多摩都市モノレール利用の場合

JR 立川駅下車、多摩モノレール立川北駅に乗り換え、高松駅下車、徒歩 10 分

立川バスの場合

JR 立川駅北口 2 番のりば乗車、「立川学術プラザ」バス停下車、徒歩 1 分
JR 立川駅北口 1 番のりば乗車、「立川市役所」バス停下車、徒歩 3 分
JR 立川駅北口 2 番のりば乗車、「裁判所前」バス停下車、徒歩 5 分

徒歩の場合

JR 立川駅下車、徒歩約 25 分

自動車利用の場合

中央自動車道「国立府中 IC」から約 15 分 ※無料駐車場あり

本カレンダーに使用している画像は当館の各種データベースから公開しています。特に「国書データベース」では、このほかにもたくさんの画像を公開していますので、ぜひご活用ください。

国書データベース
<https://kokusho.nijl.ac.jp/>



月の異称について

「睦月」、「如月」、「弥生」などは有名ですが、そのほかにも月にはさまざまな呼び名があるのをご存知ですか？

以下に記載したものもその一部です。お時間のある時にぜひご覧ください。

1月	睦月、元月、端月、初月、嘉月、正陽月、早緑月、太郎月、初空月、年初月、初春月、暮新月、初春、孟春、上春、青陽、開春、首歳、初歳、孟陽、正陽、初陽、甬年
2月	如月、令月、雪消月、初花月、梅見月、梅津月、大壮月、小草生月、仲春、麗月、酣春、仲陽、陽中、仲鐘、仲序、令節、華朝、美景、恵風、星鳥、為如、降入
3月	弥生、花月、花飛、花老、桜月、桃月、桃緑、宿月、蚕月、花見月、夢見月、春惜月、早花咲月、晩春、暮春、季春、杪春、暮陽、五陽、暮律、修祿、華節、竹秋
4月	卯月、余月、陰月、卯花月、花残月、夏初月、清和月、木葉採月、得鳥羽月、初夏、首夏、孟夏、始夏、新夏、麦秋、六陽、六気、仲呂、小満、純陽、純乾、乾梅、修景
5月	皐月、早月、橘月、啓月、鶉月、雨月、恵月、多草月、早苗月、早稲月、浴蘭月、月不見月、仲夏、梅夏、梅天、啓明、開明、薫風、長至、茂林、風火、星火、小刑、東井
6月	水無月、水月、旦月、季月、伏月、焦月、涼暮月、松風月、風待月、鳴雷月、季夏、晩夏、長夏、長列、常夏、炎陽、積陽、陽水、極暑、小暑、林鐘、則旦、鶉火
7月	文月、親月、相月、蘭月、涼月、桐月、文被月、七夜月、七夕月、秋初月、愛逢月、女郎花月、初秋、孟秋、新秋、早秋、首秋、上秋、桐秋、夷則、処暑、瓜時、流火
8月	葉月、壮月、桂月、素月、観月、木染月、秋風月、月見月、紅染月、雁来月、燕去月、草津月、仲秋、秋半、竹春、橘春、仲商、長王、白露、南呂、寒旦、大章、天岡
9月	長月、玄月、菊月、祝月、詠月、菊開月、紅葉月、竹酔月、寝覚月、色取月、青女月、季秋、晩秋、暮秋、末秋、残秋、高秋、霜辰、季白、季商、暮商、終玄、無射
10月	神無月、陽月、良月、拾月、吉月、坤月、雷無月、神去月、鎮祭月、時雨月、初霜月、小陽春、正陰月、初冬、孟冬、上冬、新冬、早冬、立冬、亥冬、小春、極陽、応章
11月	霜月、暢月、葇月、達月、霞月、復月、霜降月、霜見月、雪待月、雪見月、神帰月、神楽月、竜潜月、仲冬、盛冬、冬半、広寒、陽復、朔易、三至、六呂、天泉、短至
12月	師走、極月、臘月、臘月、歳月、茶月、窮月、除月、親子月、春待月、暮古月、梅初月、年積月、三冬月、季冬、黄冬、暮冬、晩冬、小歳、暮歳、暮節、大呂、四極

国文学研究資料館のデジタルコンテンツ

国文研にいかなくても古典籍や古文書について知ることができる！当館では、古典籍や古文書を活用したデジタルコンテンツや動画を制作しています。ぜひご活用ください。

電子展示室「書物で見る 日本古典文学史」



当館の展示室で開催している展示を Web 上でも楽しめるデジタル空間の展示室です。



古典籍画像を使う



WEB会議の背景、国語や歴史の授業、ブックカバー。仕事で、日常生活で、お使いいただける画像をご用意しています。



くずし字を読む



くずし字が読めれば、世界が広がる！ぜひ挑戦してみてください。



国文研 YouTube



国文研ってどんなところ？さまざまなイベントや、研究者たちの活動を動画で見てみませんか？



日本の文学と文化を未来へつなぐ活動に、あなたも参加しませんか？

国文学研究資料館 賛助会(友の会)のご案内

国文学研究資料館賛助会（友の会）は、日本文学の研究や普及を支えるために設立されました。特に、若手研究者の育成を目的とした「日本古典文学学術賞」は、賛助会の皆さまの温かいご支援によって、毎年選考されています。また、カレンダーの制作費の一部に賛助会寄附金を使用されています。

賛助会（友の会）にご入会いただくと、以下の特典があります。

- ① 当館主催の講演会・展示・シンポジウムなどのイベント情報をいち早くご案内
- ② 広報誌『概要』『ニュース』を定期的にお届け
- ③ その他当館が主催する催しについて各種優待

日本の古典文学を未来へつなぐこの活動に、ぜひご参加ください。皆さまのご支援が、次世代の研究者を育て、貴重な文化を守る力になります。

詳細・ご入会は
こちらから





大学共同利用機関法人 人間文化研究機構

国文学研究資料館

〒190-0014 東京都立川市緑町10-3
TEL:050-5533-2900 FAX:042-526-8604
<https://www.nijl.ac.jp/>



【表紙画像解説】

『笠間長者鶴亀物語(かさまのちょうじゃつるかめものがたり)』

【当館蔵 請求記号:29-22-1~3 碧洋白田甚五郎文庫】

(江戸時代前期頃写 列帖装3帖 23.0×16.8センチ)

孝安天皇の御代のこと。鶴を愛玩する女と亀を愛玩する男が契りを結び、不老不死の薬を得て長寿を全うする物語。絵は、常陸国笠間郡の北山の長者の娘かたをり姫が扇をあげて招くと、夫婦の鶴が舞い降りる場面。本書の箱書きと外題は「松竹物語」であるが、中身は「相生の松」(上巻)・「鶴亀物語」(中巻)・「松竹物語」(下巻)の取り合わせで、いずれも長寿を祝う祝儀物である。この物語は中巻に当たる。各巻末に月明荘(反町茂雄)の印がある。

